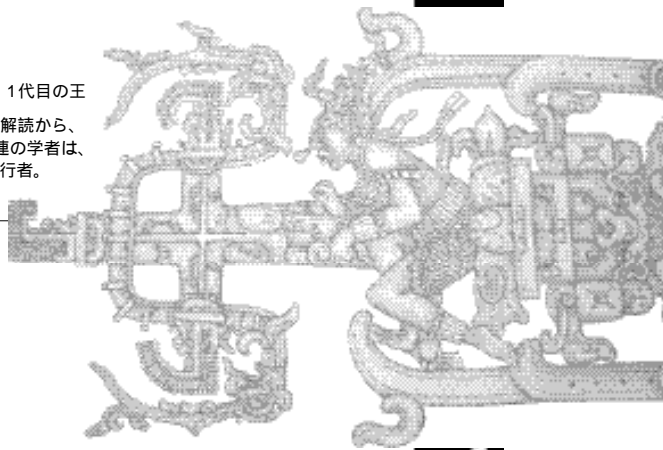


時間の旅人 パカル・ヴォタン マヤ古代王朝11代目の王
1952年発見された、この石棺と碑銘の神殿の文字の解読から、マヤの叡智がよみがえった。空間認識しかできないソ連の学者は、宇宙飛行士だと考えた。パカル・ヴォタンは、時間航行者。

第5回

2012年に向けて マヤの預言 3



柳瀬 宏秀の「コスミック・ダイアリー」

マヤ暦の叡智えいによって、誰でも、 新しい時間ちに旅立ってます

パカル・ヴォタンの預言

パカル・ヴォタンの教えは、地中に深く隠され、ある時期に、発見されるように仕組まれた。つまり、テルマ（埋蔵経）だった。

メキシコのバレンケにある碑銘の神殿と呼ばれるピラミッドが完成し、預言を刻んだこの石棺の蓋の絵とともに、パカル王の墓の石室が封印されたのが、692年。

1952年6月15日、ちょうど、1260年後。パカル王の墓があるという情報は、いつさえないなかで3年間掘り続けた考古学者によって石室の扉が開かれ、奇跡的に発見された。

1952年、692年から1260年後。12・60の暗示、人間の意識が、人工的な12・60の計時周波数に支配され、その勢いが加速する時。

パカル王の墓が開けられたのが、692年。ちょうど、1320年後が2012年。2012年、692年から1320年後。13・20の暗示

この2012年までに、13・20の計時周波数で表される自然の時間を取り戻すようにというメッセージ。

1952年、そのときから、マヤの叡智が明かされ、2012年のマヤの預言が、伝えられることになった。

12・60から、13・20へ。



ビデオ『新しい時間への旅 バレンケ』
パカル・ヴォタンに波長を合わせるビデオです。
VHS、DVD、3巻
詳細は、
<http://www.async.ne.jp/cosmic/j/msyanase605.html>
コスミック・ダイアリーのホームページをご覧ください。

「預言は、
時間のリアクション」



この連載の第1回目（2月号）の内容は、すべて「時間」は、オーガニック・オーダー」を伝えていきます。「自然の摂理をはずれていくよ」ということが教えとして出てくる、それが預言です。

イエスや仏陀が優れた預言者なのは、彼らは「愛」とか「慈愛」とかという言葉で宇宙の摂理を説いているわけです。「時間」は、オー



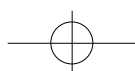
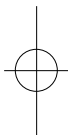
柳瀬宏秀 やなせひろひで
環境意識コミュニケーション研究所代表。
20年間、電通にて、コピーライター、CMプランナー、映像プロデューサーとして働き、4年前に退社し、現職。
「京都、満月祭り」「満月の十三祭り」を企画プロデュース。仁和寺や上賀茂神社、平安神宮などで、喜多郎、UA、BEGIN、梅若六郎など、賛同するアーティストと、祭りの空間を生み出す。

「環境意識」「月のおもてなし」「共振のコミュニケーション」をテーマに、企業コンサルタントやセミナー、研修、講演なども行っている。ホームページは、<http://www.async.ne.jp/cosmic/>

ガニック・オーダー」有機的な秩序、つながっていることがわかる。つまりみんな愛と慈愛に満ちた、つまり宇宙の摂理がわかった人たちには、その教えとしての預言は必要ないわけです。

その有機的な秩序をいま、人類が押し潰つぶしています。究極の道徳観をはずれた状態とはいったいどういふものでしょう？ 宇宙的な観点から見ると、それは自然のサイクルからはずれた生き方をするといいものです。

あまりにも、「有機的秩序」を人が見失ってしまつて、限界に来たときに、宇宙の摂理を取り戻すメッセージが必要になるのです。





柳瀬宏秀・著
『コスミック・ダイアリー2007』
(2006.7.26~2007.7.24の
ダイアリーです)
価格 2,800円(税込)+送料200円



柳瀬宏秀・著
『コスミック・ダイアリーの精神
時間は、オーガニック・オーダー
「マヤの叡智と日本人の魂の融合」
書き下ろし
価格 2,000円(税込)+送料200円



B2ポスター
コスミック・
カレンダー
「銀河の存在」
予約開始!
(728mmx
515mm縦長)

ホゼ・アグエイアス博士が描いた絵
GALACTIC BEING と
「13の月の暦」のカレンダー
価格 2,000円(税込)+送料600円

お申し込みは、FAXかメールにて、
FAX: 055-974-3877 mail:cosmic-kin12@syd.odn.ne.jp
《環境意識コミュニケーション研究所》までお申し込みください。

2012年という
マヤの預言

パカル・ヴォタンの墓が発見された1952年というのは、日本で高度成長が始まる時期です。その時を契機に、「12:60の時間ではないよ。13:20だよ」というメッセージが出てきます。

埋められて、ある時期に出てくるように考えられた教え、チベットの「埋蔵経」埋められた教え「なのです。

最初、聞いたときは、こじつけの数字なのではと思ってしまいましたけれども、実際、昨年パレンケに、1952年6月15日から74回目の260日周期の日。2005年3月2日 KIN218 白い惑星の鏡の日、パカル・ヴォタ



つまり、「時間のリアクション」として、そういう教えが必要なのです。

その時期に必要な教えが埋められ隠され、必要な時期に現れるという埋蔵経(テルマ)の意味が理解できると思います。その教えが「預言」なのです。「預言は、時間のリアクション」という観点から見ると、イエスや仏陀のような優れた預言者が必要な状況が、彼らを生んだわけです。以上が、4回目までの連載でお伝えしたことです。

シンクロニシティを
起こすための
『コスミック・ダイアリー』

そして、マヤのカレンダーと呼ばれる「13の月の暦」「コスミック・ダイアリー」というものは、実際のところマヤの人たちが使っていた、シンクロニシティを起



ンに波長の合う特別な日に行くことになりました。

いま、ピラミッドの中には入れないのですが、その入れないところに日本人21人が入ることができました。ホゼ・アグエイアス博士と一緒に歩きながら奇跡だと語っていました。そこで、パカル・ヴォタンの精神と交流し、泣き出す人もいました。「感謝」をパカル・ヴォタンから伝えられて……。

そういう現象が普通のことのように起こるといふことを感じ始めていただけだと思います。それは変なことが起こっているのではなく、「時間はオーガニック・オーダー」という当たり前のことを感じれば当たり前のように、シンクロニシティとして、パカル・ヴォタンと波長を合わせると、ピラミッドの中に奇跡的に入ることができ、パカル・ヴォタンと会話をするといふように、秩序だとして現れていることを体感することができるわけです。

2012年、
周期の終わりに

一つの周期が終わるといふことは、さらに新しいサイクルが始まるということを意味します。マヤの預言の2012年は人類に、「あなたたちはもうこれ以上物質



して、宇宙の中心の波動と同調することが可能になる、その手段のものになるための道具であったと言えるのです。

この「シンクロニシティ」を起こすのに必要であったという理由、それが、マヤの文明が一番栄えたときにマヤの人たちが17、19種類もの違う形のカレンダーを併用して使っていた理由なのです。

この19種類のカレンダーのなかには2万6000年周期のカレンダーというものが含まれていました。そしてこのカレンダーというものは宇宙の中心、フナブクから送られてくる大いなる波動というものを正確に受けとめるために使われていたカレンダーでした。

人類が、現在頼っている石油があと20、30年しかもたない、ということもその原因の一つにすぎません。

人は2012年を境に銀河系からもたらされる振動数の上昇によって、太陽とともに進化し、全体的なシフトが起こるようになるのです。私たちはそのことについて実際にできる準備行動を起こさなければならぬのです。

そのファーストステップが、「13の月の暦」「コスミック・ダイアリー」を使って、オーガニック・オーダーと波長を合わせることなのです。

的に進化することはできません」人類が進化を遂げようとするならば、精神的な進化なのです、と伝えていきます。

そしてマヤで、歴史の周期というのはい、このなかでたいへん短い周期5125年の周期を表しているのですが、その周期が2012年に終わりを迎えるといわれています。マヤの暦は正確です。

人類は地球温暖化によって影響を受けているわけですが、地球温暖化は人類が技術圏を通して作り出した一つの状態にすぎないので、これらのことはすべて人類が避けて通ることのできない、進化へ至る途中のプロセスであるといふことにすぎないのです。